

ぶどうの樹

2016.8
NO. 18



写真：2016年度 春学期チャペルアワーの様子

INDEX

特集1: 新長崎学研究センターと教職センターの設置
特集2: 本学の学友会活動

6 プロジェクト科目

7 新任教員紹介

8 就職活動報告

9 同窓会

10 2015(平成27)年度決算報告

「新長崎学研究センター」を 設置しました

総括副学長 溝田 勉

本学院が昨年12月、創立70周年を迎えた際に新設を約束した標記センターが、予定通り去る4月1日に発足した。当センターは、ふだん予想される「地方史研究所」とは趣きを全く異にしている。特徴は、現在から未来に向けたグローバル人材育成にある。従ってグローバルにも通ずる“国際教養とその方法を構築してゆく学問研究”の集積を目指す点で「静」的な研究所とは違い「動」的なセンターと称する。その狙いは、行政を含む現代社会との連携を進めつつ、その成果を高等教育研究所に即役立てようというもので、チャレンジが「新長崎学」の意味するところである。

研究体制としては、本学の常勤教職員全てを研究員とし、学外からの学識経験者は客員研究員とする規則を定めた。

研究対象の分野は、同上記念誌（「新長崎学」への^{たびだち}出発）にも記した如く（PP.167-8）、「建学の精神」や「外国語教育」から「人間の安全保障」に基づく平和の構築そして大学経営のためのIR（Institutional Research）まで、一昨年に中・長期目標としてまとめた外大ビジョンの実現に叶う17分野と定めてある。

このうち、本年度（H28）の研究対象は、次の4分野を掲げてスタートした：

- (1) 建学の精神と経営概念を挿入した外大ビジョンの具現化について
- (2) 観光学を軸とした地域活性化（地方創生）について
- (3) フルベッキ研究を事例とした長崎学の展開について
- (4) 国連を通ずる「平和」と「国際協力」分野での長崎発信（ブランド形成）について



フルベッキ博士と幕末の志士たち

初代センター長は木本雅康（歴史学）、運営の中心は溝田勉（国際協力学）、姫野順一（観光学）の3教授が担うこととし、当面の連絡事務局は既存の本学「社会連携センター」をお願いしてある。

なお、同センターの運営にかかる経費はゼロからの出発である。従って、地元経済界から募る基金を原資とする主旨から「総務的事業活動」を並行して進め、地域社会との連携を深める礎とも狙っている。

そのため本学院の理事会及び評議員会からも側面支援をいただく事となっており、こうした成果が本学における現行の「教育研究活動」の充実と発展にインセンティブ供与の意味で役立つことを目的としている。

教職センターの設置について

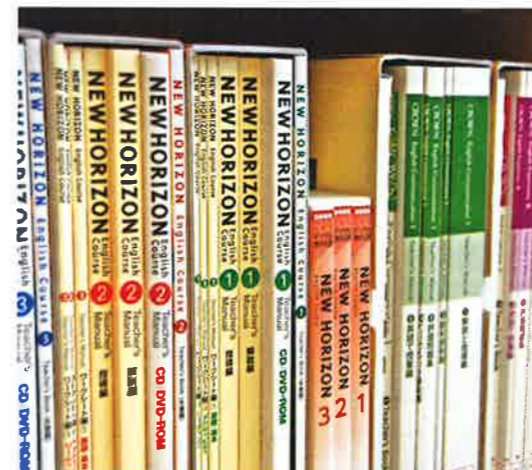
教職センター長 加島 巧

本年4月から本学に教職センターが設置されました。これは従来の教職委員会による教職課程・日本語教師養成課程を発展させたもので、本館3階の研究室が並ぶ階には学習支援室も設けられました。7月に教員採用試験を受ける4年生は、去る3月に下級生にも声を掛け、採用試験対策の合宿を開きましたが、学習支援室は、これから教員による学生指導と学年を越えた学生間の情報共有の場になろうかと考えています。

本学が養成する教師像は、学則に書かれている長崎外国語大学の教育理念及び目的に関する基本方針等に基づき、学部・学科の教育方針が反映されたものでなくてはなりません。つまり、高度な語学力を持ったグローバル時代に対応できる能力を持つ人材の育成を担う教員の養成は、本学の養成しようとする人材と全く同じだと考えています。

現在、平成32年度から実施される新学習指導要領が検討されています。そして、それに併せた教員養成改革を実施することが各大学に求められています。平成30年度には教職課程の再認定が行われますので、本大学でも新しい課程を検討しなければなりません。

最後に、日本語教師の養成も教職課程同様に力を入れて行かなければならないことを申し添えておきます。



教職センター（学習支援室）での指導風景

特集 2

本学の学友会活動

学友会について

現在、学友会執行委員は33名、外語祭やスポーツ大会等の学生主催行事の企画・運営やサークル活動の推進に力を入れて活動しています。

学友会は新生生に対し、大学生生活紹介のオリエンテーションを行い、大学生生活の楽しさを学生の視点から語り、新生生にとってはスムーズな大学生生活スタートの助けとなっています。また、5月にスポーツ大会、6月に学友会総会を開催しています。そして、学友会にとって一番大きなイベントである外語祭は、今年は10月29日(土)、30日(日)の2日間にわたり開催されます。模擬店では世界各国の料理がメニューとして並び、多くの外国人留学生も在籍していることから味も本格的で、外国語大学ならではの個性が光る学園祭となっています。その他、様々な企画展、ステージでの発表など、外語祭が円滑に進むよう、学友会執行委員会は前年度秋学期から準備を始め、週に1回定例ミーティングを行い、メンバー間の情報共有と意志疎通を図っています。これら地道な活動が2日間の学園祭の無事成功を支えています。

2016年4月14日熊本県を震源とする地震が発生した際、学友会はすぐに学内での募金活動呼びかけ、4月22日～28日にかけて募金活動を行いました。また、その支援活動は学内にとどまらず、時津町での支援物資受付ボランティアに多くの学友会執行委員が参加し、その活動に賛同する他の学生とともに、微力ながら力を尽くしました。このようなことから、今後、学友会活動が学内だけの活動に留まらず、地域とのつながりや地域との連携へと活動の幅を広げていくことが期待されています。

近年、大学には、学生が授業を受け身で聞くのではなく、学生が主体的に関わるような授業形態への転換が求められています。その際、学生が主体となって企画・運営を行う学友会活動は、あらためてその存在意義が見直されているといっているでしょう。なぜなら学友会活動を通して、学生は自ら考え、自ら企画立案していく主体的な作業をすでに実践しているからです。学友会活動を通して社会や地域の様々な課題に意欲的に取り組む人材が育つことが期待されます。

学友会担当部署 学生支援課



第66回外語祭

2016年10月29日(土)・30日(日)開催!

テーマ: 彩

国際色豊かな模擬店、お笑いライブ、OB・OG会、フリーマーケット、フラメンコの披露や箏曲部の演奏などたくさんの催しがあります。皆さんどうぞお越しください。

特集 2

本学の学友会活動 学生インタビュー

専修/学年: 現代英語学科3年
名: 吉野 翔太郎



Q 活動内容はどんなことをしていますか。

総会を通じて大学生生活の充実や向上を図る活動、学校行事の運営など多岐に渡る活動をしています。特に、季節に応じたイベントの企画を運営し、春はスポーツ大会、秋は外語祭、冬にはクリスマス会と、1年通して行います。日々の活動がみんなの充実した大学生活につながると感じることができ、大きなやりがいです。

Q 学友会に入ろうと思ったきっかけはなんですか。

もともと、イベント運営には興味がありましたが、特に明確な目的もなく、友達と一緒にについていたのがきっかけでした。しかし、今では外語祭の執行委員長に抜擢されるまでになり、学友会を通じて社会に出た時に必要な、企画力、実行力、責任感、協調性を自然と身につけることができていると実感しています。

Q 学友会活動で大変だったことはなんですか。

1年生の時の外語祭の運営です。重要なポジションを任せられ、毎日試行錯誤しながらやってきました。準備に向けてミーティングを何度も行うのですが、様々な意見が飛び交い、それを一つにまとめることが大変でした。どうしたら、限られた時間の中で効率的に話が進んでいくのか、優先順位をつけながら会議に臨むことでスムーズに回すことができるようになり、外語祭が終わった瞬間に得られた達成感は素晴らしいものでした。

Q 活動を通して自分の成長を感じたことはどこですか。

ボランティア活動や地域との関わりの中で、礼儀やマナーについて学ぶことができたのは大きかったです。アポイント一つとるだけでも、どうしたら相手が快く引き受けてくれるのか考えながら、臨むことができました。また、普段の活動から他者の意見や考え方を聞くことで視野が広くなり、様々な角度から物事を多角的に捉えることができる力が身についたと思います。

Q 今後の夢や目標を教えてください。

外語祭を成功させることです。その成功の中には、自分たちが満足するのではなく、来ていただいたお客様全員に楽しんでいただけるように色んな仕掛け作りをしていきたいです。そして伝統ある外語祭を後輩たちにうまく引き継ぐことも使命だと思います。学友会の活動を通して、「誰かのために」という想いが日々強くなり、将来は人のために役立つような仕事に携わる、明確な夢をもつことができました。

「プロジェクト科目」～誕生の背景と目的～

2011年から始まった「プロジェクト科目」(現行カリキュラムでの正式名称は「GAIDAI-Project」)は、紆余曲折を経て今年で6年目を迎えます。従来型の講義や演習とは異なり、教員が学生に知識を教授するのではなく、学生自らがこれまでの学修で培った総力を結集して何らかの課題を解決することに主眼が置かれた科目です。このような授業形態は「PBL(Project Based Learning: 課題解決型学習)」と呼ばれ、10年ほど前から全国の大学で取り入れられるようになりました。その背景には、現代における大学の使命が拡大し、実社会を生き抜ける人間の育成が急務となったことがあります。現代の学士過程は、専門教育だけでなく、学生が卒業後、変化の激しい現代社会に適応して生きていくための技能および態度の育成をも担っているのです。つまり、PBL科目には、大学で学んだ専門的知識の実社会での活かし方を実地で体験し、その体験を通して更なる学修へ意欲を高める、そのような相乗効果が見込まれているといえるでしょう。加えて近年の「地域創生」の議論とも相俟って、各大学のPBL科目には地域社会の課題を解決する役割が加わりました。PBL科目の設置と地域社会への貢献は、昨今の文科省が注力する政策の一つでもあります。私たちとしても、本学学生が自分たちの学びの社会的意義を実体験し、更なる学修意欲が喚起されることを望んでいます。語学力や海外体験から得た広い視野、広義でのコミュニケーション能力を活かして実際に地域社会に貢献することが、彼らにとって大きな励みになることは間違いありません。

しかし、そのような傾向も、行き過ぎれば学生たちにとって負担となり、却って成長を阻害しないかという一抹の不安も感じます。地域社会の課題の解決に真っ先に取り組むべきは、自治体や企業などの「オトナ」であるはずですが。学生たちは、将来的にそのような責任を果たせるように、今まずは学んでいる発展途上の若者です。「プロジェクト科目」はあくまで授業の一つであり、大学側としては、課題の解決自体よりも、それを通して学生たちが成長することを第一に考えなければなりません。これまで協力させていただいた企業や自治体の方々には、幸い理解のある方たちばかりでしたが、これからも、この取り組みが教育の一環であることを理解し、大学の人材育成に参画することを社会的責任と捉えてくれる団体との連携を求めていきたいと思えます。

本学が育成を目指す、「国際的な視野」を持った「地域並びに人類社会の幸福と発展に寄与しうる人材」は、必ずしも具体的な技術・資格を持たず、また可視的な成果を生み出すことも多くはないかもしれません。しかし、多様化の進む現代社会において、(文化的、言語的、世代的、職業的)他者と粘り強く対話し、地域社会の共生力向上に貢献しうる真のソフト・パワーは、対物質的技術や経済の原理以外のところからも生まれてこなければならぬと思えます。そのような人材の育成には多くの時間と多角的な働きかけが必要です。支援者のみなさまには、ご理解と息の長い応援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

国際コミュニケーション学科 ドイツ語専修 講師 坂本 彩希絵



本学教員の最新紹介

舘野和己・出田和久編

『日本古代の交通・交流・情報』

全3巻(吉川弘文館、2016年)

古代の人やモノは、どのように移動し、交流が生まれ、情報が伝わったのかをテーマにした3冊のシリーズ本。約50名近くの執筆者からなるが、筆者は第3巻の『遺跡と技術』の中の「古代の地方道路」と「西海道」の二項目を担当した。前者では、駅路や伝路と呼ばれる古代官道の実態について、後者では、九州の道路の特徴について、それぞれ述べている。

(木本 雅康)



新任教員紹介～よろしくおねがいいたします～

まつもと しんすけ
松本 真輔

(国際コミュニケーション学科准教授) 担当: 日本語

新任の松本真輔です。2000年より今年2月まで、韓国の慶熙(キョンヒ)大学校で勤務しておりました。久々の日本で戸惑うことも多いですが、よろしくお願い申し上げます。

みやざき さとこ
宮崎 聡子

(国際コミュニケーション学科特別任用講師)

担当: 日本語

はじめまして。宮崎聡子と申します。

岡山、札幌、ソウルでの日本語教育実践を経て、長崎に参りました。本学において各国の留学生とともに、長崎を知り、驚き、楽しんでまいりたいと思っております。「がんばらんば!」。どうぞよろしくお願いいたします。

おおたに てっぺい
大谷 鉄平

(国際コミュニケーション学科特別任用講師)

担当: 日本語

はじめまして。大谷鉄平と申します。

前任校は韓国の江陵(カンヌン)という地域にある国立大学で、これを含め、韓国に5年、また、シンガポールに3年の滞在歴がございます。しかしながら、英語・韓国語の語学力には自信がございません。ご容赦ください。

ここ長崎外国語大学を志望した大きな理由には、現在両親が住む福岡(といっても、田舎の方です)と近距離にある、ということがありますが、長崎生活約2か月が経ち、自然の豊かさや感銘を受けつつ、ゆったりと過ごしております。専門は社会言語学、特に、ことばとメディアとマーケティングの相互関係に関心があります。現在、「ビジネス日本語」に関係する科目を複数担当させていただいておりますが、この経験が、教育面とともに研究面でも活かせるものと期待しております。

まだまだ不慣れな点も多くございますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

ふじはら かずまさ
藤原 和政

(現代英語学科講師) 担当: 心理学

心理学を専攻し学んできました。

大学では、心理学や教職に関連する科目を担当しております。ご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

ドーソン ロイ ルイス
Dawson Roy LEWIS III

(現代英語学科外国人特別任用講師) 担当: 英語

Hello everyone! My name is Dawson Roy Lewis III, but you can call me Mr. Lewis or just Dawson. Or Awesome Dawson (nobody does, but you can if you want). I think speaking practice is the best way to improve in a foreign language, so please come talk to me any time. I am also happy to help with English homework or special documents, such as job or study abroad applications, so if you need help, don't be shy! My office door is always open!

はらだ よりこ
原田 依子

(現代英語学科准教授) 担当: 英語

はじめまして。現代英語学科で翻訳関係の授業を担当することになりました原田依子です。専門は英語学で、英語のテンス・アスペクトを研究していますが、最近は言葉使いにおける正しさと適切さの関係についても考えています。長崎は高校の修学旅行以来ですが、風光明媚で食べ物もおいしく、とても気に入っています。疲れて無表情になると怖く見えるようですが、根は優しいので気軽に声をかけてください。

ひめの じゅんいち
姫野 順一

(国際コミュニケーション学科特別任用教員) 担当: 観光学

四年制大学に昇格したときから非常勤を続けてきましたが、ここ5年の間に、外大は大きく変化しているように感じています。キャンパスが急に「外国」になりました。外国語と国際理解をドメインとする当大学に、グローバル化の追い風が吹いているようです。熱心な先生方と、まじめな学生さん、教育に適したコンパクトな教室に感心します。外大ビジョンは外大の教育をアクトイブに、教育の質を高めつつあるように思われます。外大が個性に満ちた建学の精神を発揮し、研究においても注目され、幕末のように西から時代の新しい風を吹かす日も近いのではないのでしょうか。

さの ゆき
佐野 友紀

(国際コミュニケーション学科講師) 担当: フランス語

はじめまして。佐野友紀です。フランス語を担当しています。長崎の生活や学校にも少しずつ慣れてきて、楽しさを実感しつつあります。特に、長崎の新鮮な魚が好きなので、食も楽しんでます。

未熟な面は多々ありますが、皆様のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

マーシャル ペック
Marshall PECK

(現代英語学科外国人特別任用講師) 担当: 英語

Hello, my name is Marshall Peck, and I am from California, in the United States. I obtained a Master's degree in TESOL from Western Carolina University in North Carolina in 2007. During the past ten years, I have lived and worked as a TESOL instructor and trainer in Poland, Malaysia, and in various parts of Japan. I very much enjoy working with keen students, and helping to build both their confidence and skills in English communication. It is a happy privilege to work with Nagasaki University of Foreign Studies, and I am truly grateful for all the support of the staff and the wonderful enthusiasm of the students.



大学情報

私の就活



☆準備しておいてよかったこと

国際コミュニケーション学科 フランス語専修 4年生

たにぐち ゆか
谷口 由佳さん



昨年から本格的にスタートした就活に前向きに取り組んでいます。3月によやく採用を前提とした企業との接触が赦されて2か月が過ぎようとしています。私の就活もまだ終了してはいませんが、自分なりに、やっっておいて良かったと思うことや、気を付けておいた方がよいことなどを振り返ってまとめてみました。

1. 単位取得 大手の成績重視の就職先を目指すならもちろん良い成績の確保が必要ですが3年生終盤から4年生の就活時間確保のためにも、卒業に必要な単位は、できるだけ早期に全部取っておいた方が安心です。

2. 留学 生の外国語や外国文化を覚悟を持って学べる環境へ自分を追い込む効果があると思います。留学に限りませんが挑戦したことの具体的内容は確実に役に立ちます。※長崎外大はキャンパスに多くの留学生がいるので、たとえ留学ができなくても多くの留学生を友達に持つと良いと思います。

3. 貯金 私はそこまでは、かかりませんでした。就活で関東方面等へ出ることが多い人の中には卒業までに30～40万円位の就活費用がかかりそうな学生もいます。これは大変な金額ですので1～2年生の間にしっかりとアルバイトで備えておくと就活が楽になると思います。



私の

恩師・山崎きみ子先生

株式会社 WEGO

外国語学部 現代英語学科 英語専修

2015年3月卒 渡部 新氏

谷口由佳さん (フランス語専修 4年生)

いつも明るく、キビキビ・ハキハキとしていて、前向きなところがとても好印象の本学4年生です! (キャリアセンタースタッフより)

卒業生



昨年、現代英語学科を卒業後、株式会社WEGOに入社。この3月よりマリノアシティ福岡店で副店長になりました。「お客様に満足頂ける『礼儀・マナー』の店」が目標です。実は私の学生時代の就活の軸は「スーツを着ないアパレル業」でした。販売の仕事が楽そうに見えたからです。そんな単純な動機からの小売業への就職は、いざやってみるとスーツを着なくとも大変な仕事の連続でした。それでも、現在は毎日がとても充実し、一番の喜びは「接客後に商品が売れた時」というのですから、少しはプロの顔になれたのでしょうか。

しかし、こんな今の私がいるのも山崎先生のお陰です。山崎先生は、いつもわが子に接するような心優しい対応をして下さいました。どうして様々な学生がいるのに、一人ひとりの勘所を押さえた指導ができるのかということも不思議でした。もちろんこれまで大変なご苦勞の賜物なのでしょうが、どんな学生に対しても、いつも絶妙のタイミングで最高のアドバイスを下さった点が、一番凄い点でした。

初めてキャリアセンターを訪ねた日、先生は私にごく自然に話しかけて下さいました。「どんな企業を探しているの?」「履歴書、書いてみる?」それから先生との二人三脚の就活がスタートし、いくつかの企業からお断りをされ、それでも、一番の志望企業に合格することができたのは、山崎先生のお陰なのです。

大学情報

同窓会活動報告

福岡・大分ブロック支部 同窓会開催のお知らせ

日時:平成28年9月4日(日)11時30分～14時30分
場所:ソラリア西鉄ホテル 17階“トランスブルー”福岡市中央区天神2-2-43
電話:092-761-6218
会費:4,000円

申込方法:メール (e-mail:mashamitsuko-mm61@crv.bbq.jp)

メールには、氏名(新姓・旧姓)、住所、電話番号、卒業年度を忘れずに入力してください。また、直前での参加またはキャンセルされる場合のみ携帯電話(森 美津子 携帯番号 090-8404-4093)にご連絡をお願いいたします。

なお、連絡なくご欠席される場合は参加費をご請求させていただきますことをご了承くださるようお願いいたします。

関東地区支部 同窓会開催報告

平成27年10月17日(土)、東京都千代田区丸の内三ツ三館caféにて、栗屋 曠 学校法人長崎学院(長崎外国語大学)理事長をお迎えし、10名の同窓生の方が参加して行われました。今回新たに加入されたお二人からは、「自分の知らない時代の外大の話を知ることができて興味深かった。」「卒業年度は違っていても同じ長崎市で学んだということで話の共通点があり大変楽しい時間が過ごせた。」「素敵なカフェでおいしい食事と心弾む会話にあっという間に時間が過ぎてしまった。」「参加の方々が皆様お元気でアクティブであったことをうれしく思った。」との感想がありました。



関東地区支部同窓会支部長 平木 輝生

関東地区支部 同窓会開催のお知らせ

日時:平成28年8月6日(土)午前10時00分
場所:国立新美術館(印象派画家の雄 ルノアール展鑑賞)東京都港区六本木7-22-2
※集合場所 同館企画展示室1E会場入口前

会費:入場料(1,600円)食事代(650円)

※同窓会は、同館地下1階カフェテリア(カレー¥650から)で食事をとりながら行います。

関東地区支部以外の同窓生の参加も大歓迎です。

申込方法:ハガキで申し込みの方 〒176-0003 東京都練馬区羽沢2-15-9 平木 輝生(ヒラキテルオ)宛

メールで申込の方 email:teruo5891@jcom.home.ne.jp

※件名は「8月6日同窓会」とご記入ください。

申込期限:7月31日(日)まで

学校法人長崎学院

現在、学校法人長崎学院長崎外国語大学は「長崎大ビジョン21」に沿って財務基盤の確立および財務体質の強化に努めています。大学収入の源泉は「授業料等」、「補助金」、「寄付金」、「その他」と4つに大別されますが、その中でも「授業料等」は2015年度事業活動収入計(帰属収入)の内60.9%を占めています。2015(平成27)年5月1日付の総在籍数は665名(対前年度比2名増)、2015(平成27)年11月1日付の総在籍数は660名(対前年度比48名増)と対前年度比50名を上回ることが出来ました。また昨年度、一昨年度は、18歳人口が減少する中、学生募集の強化に取り組んだ結果、1年次入学者数は2年続けて入学定員(170名)を上回ることが出来たものの、2016(平成28)年5月1日付の1年次入学者数は150名と入学定員を下回る結果となりました。

学生生徒等納付金収入全体では、前年度決算比で6,886万円の増収となりました。また、「補助金」においては、私立大学等改革総合支援事業や私立大学等教育研究活性化設備整備事業そして私立大学等経営強化集中支援事業の採択により前年度決算比で799万円の増収となりました。

これらの結果、事業活動収支(消費収支)においては事業活動収入計(帰属収入)が12億8,363万円となり、前年度決算比1億935万円の増収となっています。一方、支出については、全学一丸となって経費の低減に努めた結果、事業活動支出計(消費支出)が11億9,360万円となり、前年度決算比で440万円の支出減となりましたが、概ね計画通りに推移することが出来ました。

上記の結果、2015(平成27)年度決算では事業活動収支(消費収支)において9,003万円の大幅な改善となりました。

資金収支計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

〔収入の部〕 (単位:円)				〔支出の部〕 (単位:円)			
科目	平成27年度予算	平成27年度決算	差異	科目	平成27年度予算	平成27年度決算	差異
学生生徒等納付金収入	731,518,750	781,417,760	△ 49,899,010	人件費支出	555,875,000	560,038,836	△ 4,163,836
手数料収入	8,978,000	6,840,520	2,137,480	教育研究経費支出	262,894,000	263,222,461	△ 328,461
寄付金収入	3,000,000	9,261,967	△ 6,261,967	管理経費支出	162,065,000	170,782,752	△ 8,717,752
補助金収入	244,582,000	270,819,568	△ 26,237,568	借入金等利息支出	55,170,000	55,383,833	△ 213,833
資産売却収入	0	603,000	△ 603,000	借入金等返済支出	480,093,000	529,361,895	△ 49,268,895
付随事業・収益事業収入	170,969,000	173,454,586	△ 2,485,586	施設関係支出	9,788,000	318,600	9,469,400
受取利息・配当金収入	81,000	55,138	25,862	設備関係支出	54,562,000	54,641,039	△ 79,039
雑収入	26,237,000	37,445,557	△ 11,208,557	その他の支出	36,120,151	57,466,952	△ 21,346,801
借入金等収入	402,000,000	402,000,000	0	[予備費]	5,000,000	5,000,000	0
前受金収入	205,701,000	229,149,450	△ 23,448,450	資金支出調整勘定	△ 35,544,000	△ 35,952,716	408,716
その他の収入	53,303,500	61,085,731	△ 7,782,231	翌年度繰越支払資金	87,723,299	125,966,824	△ 38,243,525
資金収入調整勘定	△ 269,110,800	△ 272,729,492	3,618,692	支出の部合計	1,673,746,450	1,781,230,476	△ 107,484,026
前年度繰越支払資金	96,487,000	81,826,691	14,660,309				
収入の部合計	1,673,746,450	1,781,230,476	△ 107,484,026				

活動区分資金収支計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

活動区分	収入	支出	差異
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	1,251,055,311	
	教育活動資金支出計	993,661,310	
	差引	257,394,001	
	調整勘定等	△ 13,147,470	
教育活動資金収支差額	244,246,531		
施設整備等活動による資金収支	施設整備等活動資金収入計	28,094,967	
	施設整備等活動資金支出計	54,959,639	
	差引	△ 26,864,672	
	調整勘定等	16,563,622	
施設整備等活動資金収支差額	△ 10,301,050		
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			233,945,481
その他の活動による資金収支	その他の活動資金収入計	407,309,630	
	その他の活動資金支出計	597,233,738	
	差引	△ 189,924,108	
	調整勘定等	118,760	
その他の活動資金収支差額	△ 189,805,348		
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			44,140,133
前年度繰越支払資金			81,826,691
翌年度繰越支払資金			125,966,824

(注記) 活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

項目	資金収支計算書計上額	教育活動による資金収支	施設整備等活動による資金収支	その他の活動による資金収支
前受金収入	229,149,450	229,149,450	—	—
前期末未収入金収入	56,523,919	22,186,819	34,337,000	100
期末未収入金	△ 35,019,304	△ 16,789,300	△ 18,230,000	△ 4
前期末前受金	△ 237,710,188	△ 237,710,188	—	—
収入計	12,943,877	△ 3,163,219	16,107,000	96
前期末未払金支払支出	41,101,273	32,119,867	8,981,406	—
前払金支払支出	4,260,408	4,260,408	—	—
前期末前払金	△ 2,761,977	△ 2,643,313	—	△ 118,664
期末未払金	△ 33,190,739	△ 23,752,711	△ 9,438,028	—
支出計	9,408,965	9,984,251	△ 456,622	△ 118,664
収入計-支出計	3,534,912	△ 13,147,470	16,563,622	118,760

2015 (平成27) 年度 決算報告

事業活動収支計算書 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

科目		平成27年度予算	平成27年度決算	差異
教育活動収入	学生生徒等納付金	731,518,750	781,417,760	△ 49,899,010
	手数料	8,978,000	6,840,520	2,137,480
	寄付金	3,000,000	0	3,000,000
	経常費補助金	207,715,000	252,589,568	△ 44,874,568
	付随事業収入	170,969,000	173,454,586	△ 2,485,586
雑収入	26,237,000	37,585,351	△ 11,348,351	
① 教育活動収入計	1,148,417,750	1,251,887,785	△ 103,470,035	
事業活動支出	人件費	555,875,000	560,472,992	△ 4,597,992
	教育研究経費	340,716,000	343,235,512	△ 2,519,512
	(減価償却額)	(77,822,000)	(80,013,051)	(△ 2,191,051)
	管理経費	222,897,000	231,208,265	△ 8,311,265
	(減価償却額)	(60,832,000)	(60,808,252)	(23,748)
徴収不能額	0	512,760	△ 512,760	
② 教育活動支出計	1,119,488,000	1,135,429,529	△ 15,941,529	
③ 教育活動収支差額	28,929,750	116,458,256	△ 87,528,506	
教育活動外収支	受取利息	81,000	55,138	25,862
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	④ 教育活動外収入計	81,000	55,138	25,862
	借入金等利息	55,170,000	55,383,833	△ 213,833
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	⑤ 教育活動外支出計	55,170,000	55,383,833	△ 213,833
	⑥ 教育活動外収支差額	△ 55,089,000	△ 55,328,695	239,695
⑦ 経常収支差額	△ 26,159,250	61,129,561	△ 87,288,811	
特別収支	資産売却収入	0	602,997	△ 602,997
	その他の特別収入	38,967,000	31,082,668	7,884,332
	⑧ 特別収入計	38,967,000	31,685,665	7,281,335
	資産処分差額	0	2,405,726	△ 2,405,726
	その他の特別支出	0	382,920	△ 382,920
	⑨ 特別支出計	0	2,788,646	△ 2,788,646
	⑩ 特別収支差額	38,967,000	28,897,019	10,069,981
	⑪ 予備費	5,000,000	0	5,000,000
	⑫ 基本金組入前当年度収支差額	7,807,750	90,026,580	△ 82,218,830
	⑬ 基本金組入額合計	△ 208,699,000	△ 135,922,525	△ 72,776,475
	⑭ 当年度収支差額	△ 200,891,250	△ 45,895,945	△ 154,995,305
	⑮ 前年度繰越収支差額	△ 2,949,206,192	△ 2,978,810,620	29,604,428
	⑯ 翌年度繰越収支差額	△ 3,150,097,442	△ 3,024,706,565	△ 125,390,877
	(参考)			
	⑰ 事業活動収入計	1,187,465,750	1,283,628,588	△ 96,162,838
	⑱ 事業活動支出計	1,179,658,000	1,193,602,008	△ 13,944,008

貸借対照表 平成28年3月31日

資産の部 (単位:円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,798,522,326	5,885,878,072	△ 87,355,746
有形固定資産	5,781,333,520	5,866,816,753	△ 85,483,233
特定資産	10,000,000	10,000,000	0
その他の固定資産	7,188,806	9,061,319	△ 1,872,513
流動資産	167,031,432	144,733,388	22,298,044
資産の部合計	5,965,553,758	6,030,611,460	△ 65,057,702
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,860,765,282	1,967,321,740	△ 106,556,458
流動負債	487,507,275	536,035,099	△ 48,527,824
負債の部合計	2,348,272,557	2,503,356,839	△ 155,084,282
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	6,641,987,766	6,506,065,241	135,922,525
第1号基本金	6,562,987,766	6,427,065,241	135,922,525
第4号基本金	79,000,000	79,000,000	0
繰越収支差額	△ 3,024,706,565	△ 2,978,810,620	△ 45,895,945
翌年度繰越収支差額	△ 3,024,706,565	△ 2,978,810,620	△ 45,895,945
純資産の部合計	3,617,281,201	3,527,254,621	90,026,580
負債及び純資産の部合計	5,965,553,758	6,030,611,460	△ 65,057,702



フランス人研修生と本学生によるV.ファーレンホームゲーム観戦